

CONTENTS COMBAT

2018.Jan.
No.502

1

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
Tomoyuki Orimoto
Cover Girl
Fight!! Piccholina
Special Thanks
NMVA/Nakata Shoten
©WORLD PHOTO PRESS 2018
※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



【巻頭特集】

横田 徹の世界最前線レポート

010 イラク伝説のスナイパー、在りし日の姿

【特集／軍用車両】

018 MILITARY VEHICLE PARADISE ミリタリーヴィークルに首ったけ!

020 オーナー座談会 MVに魅せられて……

026 軍用車両発達史

034 超ディープなジープ対決 ウィリスMB vs フォードGPW!

040 三等兵プレゼンツ あなたの乗りたいミリタリーヴィークル見つけます! 俺の運命のMV

042 ポロポロのMVを乗れるよう、きれいに再生 これがMVレストア最前線!

046 NMVA楠林正将理事長に聞きました! MVのあんなことや、こんなこと!

【特集／トイガン】

048 TOKYO MARUI GAS BLOWBACK 89式 5.56mm 小銃

●Photos&Text by Taku

056 WESTERN ARMS BERETTA M92FS TACTICAL CENTURION CBHW

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

【特集／ミリタリー】

052 東京マルイ・ガスブローバック89式小銃発表記念!! 自衛隊経験者に聞く

89式小銃実射インタビュー

060 WESTERN ARMS MOVIE GUN SERIES

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

070 国際防衛展示会 DSEI2017

●レポート: 清谷信一 (Shinichi Kiyotani)



004 COMBAT FRONT LINE

066 ニッポンの力こぶ

076 突撃!!ぴっちょりな☆

080 NEW GENERATION STYLER

●fujiwara

090 The Equipments of the U.S. Force [現用米軍装備カタログ] プレート・キャリア特集Part.3

100 トイガンニュース

100 東京マルイ 東京マルイフェスタ発表のニューモデルラインナップ!!

102 タナカ S&W M627パフォーマンスセンター5インチ8ショット《HW Ver.2》

103 タナカ S&W M29/4インチ《スチール・ジュビター・フィニッシュ》

106 秋の祭典!ちうさば&ヘタレンジャーと遊ぼう!

112 PROJECT NINJA

●morizd東京装備BAKA)

114 兵装嗜癖

116 ミリいじ技研

117 Militaria Roundup!

ヴェトナム戦争 アメリカ陸軍野戦装備Part.1

128 PRESENT

148 サバゲ三等兵

●織本知之

154 サバゲ三等兵 loves PARADOX!

156 DJちゅうの雑記ノート

196 Goods & Accessory

200 中田商店グッズ

202 S&Grafグッズ

129 GAME OVER THE TOP

132 US SHOOTING LIFE

134 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

136 アラフォーズ!

138 サバゲ三等兵APS部!

140 トイガンズ・ジャンクション

172 ヘンリー少年のミリ雑講義

174 JKGナイフコンテスト&JKGナイフショー

176 編集長日誌

177 バックナンバーリスト

178 ミリタリーコレクション

180 レア・ミリタリー・コレクション

182 A STITCH IN TIME

183 ビクトリーショー

184 シネマ放浪記

185 新作DVD紹介

186 蛙のゆびさき

188 戦車兵通信 WORLD OF TANKS

190 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

191 読者プレゼント応募方法

192 編集後記





MILITARY VEHICLE

Paradise

ミリタリーヴィークルに首ったけ!

戦場を駆け抜け、兵士とともにあったミリタリーヴィークル(MV)。過酷な環境で、兵士たちの”足”となったMVには、余計なものを削ぎ落としたフォルム、タフなエンジン音と走破性……。そんな時代に流されない機能美が備わる。便利さや快適さ……。昨今もてはやされる耳あたりのいい言葉とは無縁の無骨さ。だが、本能に訴えかける”奴ら”のプロフィールに一度惹きつけられると、もう後戻りなんてできない……。日本ミリタリーヴィークル協会(NMVA)協力のもとC☆M流・MVの魅力を全公開!

Welcome to the MV Paradise!!

●Producer : Duke Hiroi ●Cooperation : NMVA

●Photo : Tomoyuki Orimoto ●Model : Fight! Picciolina ●Costume : Nakata Shoten





Tsuruchiyo SHIBATA,
Hiroki HASEGAWA and
Yusuke OZAWA

TALKING ABOUT MV

MVオーナー座談会

好きで仕方ないから手に入れた……。
60 & 40 & 20各世代の乗り手たちが
MVの尽きぬ魅力を大いに語る!

●Photos : Tomoyuki Orimoto ●Construct : Kenichiro Kano

——MVに興味を持つようになったきっかけを教えてください。

柴田：小学生の時に観た『ラット・パトロール』（'60年代後半に放映された米国の戦争アクションTVシリーズ）がきっかけで、まずジープが好きになりました。はじめてMVを所有したのは昭和48年。社会人になって1年経ってからでした。日産のトラック工場の前に放置してあった神奈川県所有

の三菱CJ3-J10というミドルジープを頼み込んで譲ってもらい、ボディを切って短くしてJ54Aの新品の幌を買って付け、自衛隊のJ3型風に改造したものでした。

長谷川：学生時代に自動車解体場でバイトをしていたんです。世はバブル絶頂期で官庁も車輛をこぞって更新していたので、バイト先にも大量のジープが入って来たんです。「これだけあるんだから何かやってみよう」と、パーツを寄

せ集めたジープを作って、乗ったり、知人に譲ったりしていました。もちろん当時の社長には許可を得てですよ（笑）。離れていたジープにまた接近したのは2年前。父が突然「定年の日にMVに乗りたい」と言い出したんです。昔のツテを頼って九州でMVを買い、これまた昔取った杵柄で整備もしました。それが今日の1/2tトラック。実は、父は一度乗ったら満足したのか、すっかり興味をなくしちゃったんで、引

本邦初!? 超DEEPなJEEP対決!!

ウィリスMB

フォードGPW

WILLYS MB vs FORD GPW

一見、同じように見える2輛のジープ。
いずれもWWII時の米軍の主力モデル。
しかしメーカーが違えば、ディテールは異なる。
戦え!!ぴっちょりーなのナビで徹底比較!!

- Photo : Tomoyuki Orimoto
- Text : Duke Hiroi
- Model : Fight! Picciolina
- Costume : Nakata Shoten



All a girl
really
wants is
one cool MV



かたやウィリスMB。映画でも馴染みの軍用車輛ミリタリーヴィークル(MV)の代表格です。



こなたフォードGPW、操縦はオートジャンクションの安井氏 (NMVA副理事長)。

今

回の「MV特集」の目玉(!?),ジープ対決! 対決たってドッチが強い、みたいものではなく、実車を使った完全比較。創刊以来培われたC☆M魂を、私・デューク廣井が全身全霊込めてぶつけてみたいと思う次第!

ご覧の通りほぼ同型の第2次世界大戦当時のアメリカ軍用ジープ。色はともかく、同じにも見えるけど、この2輛、別々の車種。米海軍艦体色の個体はウィリスMB、オリーブドラブ色の個体はフォードGPW。いずれも走行可能なオリジナルの実車! こんな状態の良い2輛を並べてインプレッションした例は、デュークの知る限り、全く初めての試み! この貴重な機会を得て、可能な限りの実車比較をさせていただき、コンパクト・フリークな読者諸君に「元祖MV」の魅力をお届けしたい!

1941年、アメリカン・バンタムの仕様を軍から公開されたウィリス・オーバーランドは、MAを経てMBを世に送り出す。トライアルの結果、

フォードもこれに追従し、1942年からGPWを製造。同スペックの車輛が戦場を駆けることになった……。この2車種の歴史のさらなる詳細は、大先輩・菊月氏の「発達史」を熟読いただくとして、こちらでは、メカ的な特徴を見ていきたい。これらのジープ、最大の特長は汎用性の高さ。開発期間が短かった副産物とも言えるが、エンジンや駆動系も含めて、既存車輛からのパーツの流用に次ぐ流用を行なったことが、第一の理由。さらに既存の実績と基本コンセプトが優れていたため、画期的な技術革新を必要としなかったこと。そして、メーカー間を超えた米国工業技術の高いレベルでの融合だ。よって、MBもGPWも生産性および整備性に至るまで同一で、ほとんどのパーツに互換性をもたせている。

では早速次のページから、日本ミリタリーヴィークル協会の協力のもと、グラフィックに実車比較をしていこう。舞台は、本誌にも度々登場するオートジャンクション。編集長はじめ、今号の表紙を飾る戦え!!ぴっちょりーな☆も同行して行なわれたC☆Mチームの総力取材である。ご高覧あれ!

M3ハーフトラックの残骸が鎮座。これくらいだったら、ぜんぜん大丈夫！ 立派なMVIに復活できますヨ！

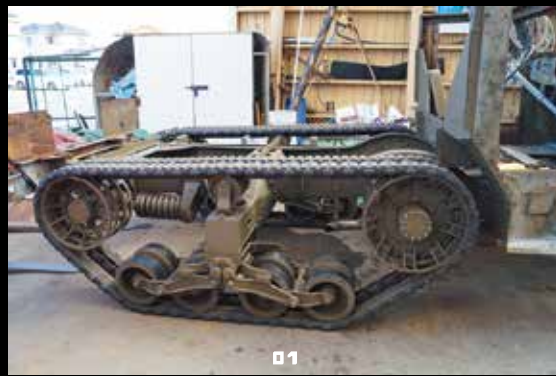


PROJECT RESTORATION

ボロボロ？ 問題なし！ きれいに再生します！ これがMVレストア最前線！

BEFORE

軍の放出品やスクラップ、民間で放置されっぱなしにされたオンボロ……。 “本物”のMVに乗りたと思った時に会える車輜はそんなものも多い。でも、ほんとに乗れるのかな？ なんて思い悩む必要なし！ ばっちりレストアしてくれる強力な味方が群馬県にいましたよ！



01

01. クローラー部に履帯を装着。この履帯、なんと新品で購入。米軍MVは元々マズプロダクトの権化なので、結構な数のパーツが米国内に存在しているのだ。
02. 操舵周りや床板のチェッカープレートは修復補修。チェッカープレートなどの金属加工はお手のもの。

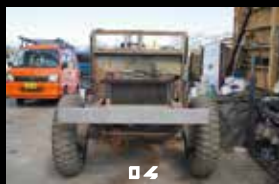
本誌でも2度ほど紹介して、好評を得てきたミリタリーヴィークル (MV)。ですが、いまだに「MVのレストアってどうしたらいいの？」なんて聞かれることも多い私・デューク廣井。確かにMVを実際に動かすまでの過程は意外と知られていないもの。よし！ ここはNMVA広報部長として、レストアについて語ってみたい！



02



03



04



05

03. 何が違う……と思ったら、エンジンはオリジナルではなく、往年の名車、日産パトロールのエンジンでした。そういうのも有りかとわかった瞬間目からウロコです。 04. ここまで出来れば、後は得意の鉄工技術で外装を作り直すだけだ！ 05. 最後の調整をして……。



AFTER

これが現在稼働可能なM3ハーフトラック。履帯なので公道は走れないが、タフに不整地を走行する姿は、感動モノ！ 来年開催されるMVG2018 (C☆Mでも告知しますヨ) でも大活躍間違い無し！

そもそもレストア (restore) は「回復する」「復活させる」という意味を持つ単語。現在、民間でMVを所有するためには、過去、合法的に自衛隊から出たスクラップや、米軍の放出品を修理、修復して復活させることが必要不可欠。この回復作業こそが「MVレストア」なのである。また、民生品の車輜をミリタリー風にリメイクすることだってもちろん「アリ」。

そんな、レストア&リメイクを引き受けてくれる「MVレストア駆け込み寺」が群馬県にある。筆者がTVドキュメンタリーの監修などの際に支援してもらっている「KT. ARTS」だ。社長はNMVAの理事も兼ねる塚田恭平氏。正業の傍ら、自社工場にて数々のMVのレストア&リメイクにあたった。手がけた車輜はM3ハーフトラックをはじめ、ダッジ・ウェ

ボンキャリアWC52、ダッジ・WC57コマンドカー、ハーレーFLHの実車、さらに国産車ベースでのリプロダクト……と数多く、その実力は折り紙つき！
今回はそんなKT. ARTSの現場を訪ね「待機中」「現在進行中」と「復活なった」車輜を見せていただきつつ、奥深いレストアの世界のほんの一端を紹介してみよう！



これヤマハのビラーゴ250ccですよ！ 塚田氏の手にかかると、まるでハーレーFLHにしか見えない。完成したところを早く見たい。諸経費込みで100万円ほどだという。



M16対空自走砲スカイクリーナーの基部が転がっている。スカイクリーナーはプラモの商品名だが、デュークの世代では何と言ってもこれはスカイクリーナーなのです。

秋の祭典！ 装備&サバゲ、どっち

ちうさば&ヘタレンジャーと遊ぼう！ レポート：DJちゅう

も腹いっぱいに楽しめ！

Hey Dudes, Wake Up,
It's a Time for The Battle!



さる10月15日、C★Mの新鋭レポーター、DJちゅうと、ヘタレンジャー氏の共催イベント、秋の祭典！ちうさば&ヘタレンジャーと遊ぼう！が埼玉ROCK254にて行なわれた。ドレスコードは「2010年アフガニスタン」。土砂降りの天気にも関わらず集ったDUDEたちの熱く激しい闘いとコーデをDJちゅうが渾身のレポート！

「関東でサバゲしたい!」。博多在住レポーター

どうも！今回主催ゲームを共同でやらせてもらった、DJちゅうです。かねてより「関東でサバゲをしてみたい!」と言い続けていた福岡在住のぼく。いや、リエナクト系イベントには遠征してはいたんです。でも、サバゲとなると地元でもできるし、なかなか腰を上げないまま思いだけが募っていました。そんな出不清な僕の背中を蹴飛ばして(!?)くれたのは、友人であり、

BDUカスタムやオリジナルタクティカルギアを得意とするテラーショップ「ヘタレンジャー」の原くん。「一緒にやってみない?」そんなお誘いを受けて、ついつい、初関東サバゲを主催! という無謀な賭けにでてしまいました。正直人が集まるか、かなり不安でしたが、蓋をあけてみれば110人超の方に

集まりいただけることに。本当に感謝です！知っている人は知っていると思いま



の熱い思いが実を結んだ(!?) イベント開催!

すが、僕もヘタレンジャーも装備好き。当然、サバイバルゲームだけではなく、ゲームと装備を並行して楽しめるイベントにしようと思いを絞って、特殊ルールのゲームを企画しました。あと、装備好きのために「裏ドレスコード：2010年アフガニスタン」を設定しました。といっても、あくまでも「裏」の設定。参加して下さる方は、ゲーマー装備でも私服でも最新装備でも何でもOKにしました。ただ、合わ

せられる方は、裏テーマに沿って装備バッチリ決めてもらえばイベントが盛り上がるんじゃないか、なんて考えました。そもそも、せっかくコレクションしている装備があれば使いたいのがマニアの心情。でもなかなか機会がないですよね。ならば僕らが機会を作っちゃおうじゃないの! という事で、あえてちょっと古い年代を指定しました。2010年としたのは、僕自身思い

入れが強い年代だったというのもありますが、指定年代・ロケーションを狭めたことにより、それに向けて装備を組むモチベーションがあがると思ったからです。当日はあいにくの雨でしたが、テーマに沿った装備をまとった猛者たちと純粋にサバゲを楽しみたいゲーマーたちが埼玉アウトドアフィールドROCK254に集結。彼らの勇姿をたくさんご覧アレ!

